



みんなで家庭教育！



7月4日に家庭教育学級リーダー研修会において、「尾木ママの子育てなんでも相談会」を開催しました。市いじめ防止専門委員会の特別顧問である尾木ママこと、尾木直樹先生をお招きし、子育てにおいて大切にしたいこと、考えていきたいことを学ぶ会になりました。

この会は、Q&A形式で行われ、学級生のリーダーから直接子育てに関する質問をし、尾木ママに答えていただきました。尾木ママの話の中では、子育てについて納得・共感することが多くあり、どうしていいかわからなかった不安や、悶々と心の中で溜め込んでいた悩みが少しずつ解消されていきました。子育てのヒントもたくさん得ることができ、また今日から楽しく子育てをしていこうという気持ちを抱くことができました。



Q：自己肯定感が低く、「頑張っても無理だ」と言う発言が多いです。自己肯定感を高めるにはどうしたらいいでしょうか？頑張ったにも関わらず結果が良くなかったとき、どのような声かけをしたらいいのでしょうか？

(中3男子の母)

- A：
- 自己肯定感が低いのは、子どものころから他人と比較されたり、たとえば100点満点中70点だった場合に70点得点したことを褒められるのではなく、30点失点したことを指摘されたりするからです。
 - 良い結果や良い成績がなければ自己肯定感が育たないというわけではなく、他者との関係に関わりなく自らを肯定できる「絶対的自己肯定感」を高めていくことが大切です。
 - 「頑張ったね」という声掛けは頑張ったというプロセスを褒める声掛けです。頑張ったプロセスを褒めることが難しいとお母さんが感じた場合は、大人からみて大したことではなかったとしても、子どもがしたことを「認めてあげる」意識で接するといいですよ。(起きるのが遅かったとしても、「自分で起きてこられたことが素晴らしい」など。)

Q：家で娘が常に怒っているので、どのように接したらいいのか悩んでいます。幼稚園ではお利口にしていて反動と、妹ができてあまり面倒を見てあげられていないことが原因だと思います。娘の気持ちを受け止めようとするとどンドンわがママになり、最終的には私が怒ってしまいます。

(年長の女子・2歳の女子の母)

- A：
- わがママが出てくるのはごくふつうの現象で、全く心配はありません。
 - むしろ上の子には「いつもかまってあげられなくてごめんね、下の子が寝たから30分くらい一緒に〇〇しようか」と短時間でも質の高いふれあいをすることが大切です。
 - 園児の年齢ならスキンシップをとることも大切で、イライラしやすい子どもにはオキトキシン(愛情ホルモン)が足りないと言われていて、抱きしめたり触れたりするといいですよ。
 - 下の子のお世話が忙しすぎて抱っこをさせてあげられないような場合は、「背中を2回トントンとしたら抱っこしたと思って」と子どもと約束するのもひとつの方法ですね。
 - 子どもにはできる限りお手伝いをさせて、頼る関係をつくっておくといいですよ。

Q：発達障害(自閉症スペクトラム)と診断された小1の息子がいます。友達や通学分団の子たちには、いづごろ伝えるべきでしょうか。

(小1男子の母)

- A：
- 一般論ではみんなに伝えるのは小3くらいが良いとされています。
 - ただし、伝え方は「障がい」というのを前面に出すのではなく「個性」として伝えるのが良いと思います。そして周りの子にはどのような配慮をして欲しいか具体的に伝えるべきですね。
 - 養護教諭ともよく相談し、サポートを得られるといいですね。

Q：安倍首相もこれからは「人生100年時代」と公言しました。これから日本の将来を担う子どもたちの人生100年時代に必要な教育、必要なスキルは何だと思われますか。また、その教育やスキルを得るために家庭でできることは何だと思われますか。(小4女子と小2男子の母)

- A：
- 人生100年時代は本当にやってくると同時に、急速にAI時代に進んでいきます。OECDによれば2030年には42%、2052年には100%の仕事がAIに置き換わると言われています。
 - その上でOECDは、「生きのびる力」をつけなければいけないとしています。それは、「新しい価値の創造」「緊張とジレンマの調整力」「責任を取る力(説明できる力)」の3点です。
 - これからの子どもたちは、漢字を正確に記憶して復元する能力よりも、このOECDの生き残るための3つの能力を磨いて使いこなす側に回る必要があります。
 - これに加え、グローバルなコミュニケーション能力も必要ですね。グローバルなコミュニケーション能力とは他人の心を読むということではなく、英語でのコミュニケーション能力です。英語力とともにコミュニケーションの取り方も重要になってきます。

Q：不登校について子どもへの接し方、学校との関わり方、連携についてお聞かせください。

(小5男子と小3男子の母)

- A：
- 不登校児をもつ親はすごくつらいですが、子どもはもっとつらい思いをしています。
 - 国は教育機会確保法を作り、学校を休む権利を決議しました。田舎だと近所や同居親族等の目が気になるかもしれませんが、自信をもって休んでいいと思いますよ。
 - 不登校児は必ず何か嫌なことがあるはずですよ。保護者は学校との情報交換や連携を密にして、チャレンジ登校したときなど、子どもがどういうときに笑うのか等をよく観察するといいですね。

私もこんなふうに育ててもらったんだなあ・



夏休み中の中高生を対象に、4か月健診や7か月相談を受けにみえた親子に協力してもらい、赤ちゃんとおふれあう「ドキドキ赤ちゃんおふれあい体験」を行いました。今年度は4回開催し、31名の生徒の皆さん（中学生25名 高校生6名）が参加してくれました。初めて赤ちゃんにおふれ、その愛くるしさに感動していた生徒さん、お母さんから赤ちゃんと一緒に過ごす幸せや大変さを教えてもらった生徒さん、助産師や保育士という将来の夢を見据えて積極的に赤ちゃんを抱っこし、笑顔であやし続けた生徒さん、どの生徒さんも精一杯赤ちゃんやお母さんと関わってくれました。



「赤ちゃんって小さくて、とても大切な存在なんだな。」

「自分もこんなふうに育ててもらったんだな。」

「愛情をそそいで育ててくれたお父さん、お母さん、家族みんなに感謝したいな。」

体験後に語ってくれた中高生のみなさんの言葉です。純粋に命に向き合い、家族のきずなや感謝の思いを抱いてくれたことに、とても幸せな気持ちになりました。生徒さんの姿から、私たち大人も親として、我が子にもう一度、生まれたときのこと、それからどんなふうに育ってきたのかを語っていきたいですね。そして、「生まれてきてくれてありがとう。」「あなたの成長が何よりうれしいよ。」そんな言葉を伝えて、子どもとまっすぐに向き合っていきたいですね。

生徒さんの感想(一部抜粋)



◎赤ちゃんがすごくかわいかったです。泣いている赤ちゃんもお母さんに抱っこされるとすぐに泣きやんでいて、お母さんはすごいなと思いました。

◎4か月の赤ちゃんはすごく小さくて、小さな命を大切にしないといけないと改めて分かりました。お母さんも子育ては大変だと言っていて、私も抱っこや本を読んであげると、そのお母さんたちの気持ちが分かりました。赤ちゃんが笑うと、お母さんもうれしそうに笑っていて、私もうれしくなりました。

◎妊婦体験をしてみて、いつも10kgを抱えて生活していることがとても大変だと思ったし、不便なこともたくさんあるんだろうなと思い、お母さんたちは強いなと思いました。私を産んでくれたお母さんもこんな思いをしていたらと思うと、とても大変だったんだなと思いました。

◎自分も15年前は赤ちゃんだったと思うと、不思議な感じがしました。赤ちゃんとおふれあうのはとても緊張しましたが、赤ちゃんはあたたかくて、いいにおいがしました。赤ちゃんが泣くときに、どうして泣いているのかがわかっていてお母さんは、しっかり子どもをみているんだなと思いました。

◎今日は双子の赤ちゃんとおふれあって、女の子と男の子では、抱いた感じの重さが違ってびっくりしました。保護者の方からミルクを飲む量や寝るタイミングも違うことを聞いて、赤ちゃん1人のお世話でも大変なのに、赤ちゃん2人をお世話していると思うと大変だなと感じました。

◎抱っこや名前を呼んであげたときに笑ってくれたことがうれしかったです。お母さんたちに話を伺うと、昨日までできなかったことができるようになったときがうれしいとおっしゃっていました。赤ちゃんの日々成長していく姿をうれしいと思う反面、ぐずったときの抱っこや3時間おきの授乳など、子育ての大変さも聞くことができました。お母さんは大変な思いをしながら、大切に私を育ててくれたことに、あらためて感謝したいなと思いました。私は将来保健師になりたいと考えているので、今回良い体験ができたと思っています。

赤ちゃんのお母さんより(一部抜粋)

- 学生さんに関わることもななかったので、絵本を読んでもらったりしてとてもうれしそうでした！絵本にあんなに興味をもつなんてびっくりでした！！優しくおふれあってくれてうれしかったです。
- 子育ては大変なことも多いですが、子どもの成長はうれしいし、本当にかわいく楽しいものです。勉強も大変かと思いますが、これからは頑張ってください。
- 我が子がとても笑顔になったので、今日接していただいて、子どもにとってもいい刺激になりました。たくさん声をかけたりあやしたりしてくれて、一生懸命なところが伝わりました。ありがとうございました。
- とてもよくしてくれて満足でした！やさしく抱っこをしてくれて子どもが寝てくれました。将来親になったら子どもをいっぱい笑顔にしてくれるいいパパになってください。



☆まだまだ熱中症にお気をつけくださいね…。
可児市役所 子育て支援課 親子まなび支援係 前田 加代子
電話：62-1111（内線5545）FAX：66-1005
E-mail：kosodate@city.kani.lg.jp

